

PATO 岩手 連絡協

No28号

事務局
〒020-0015
盛岡市本町通
三丁目 11-50-707
公認スキーパトロール
連絡協議会
岩手県支部

第17回 畜スキーパト競技大会 雪上競技で健闘

菅原 健 (金ヶ崎町スキー協会)

ドキッ、ドキッ、ドキッ、心の音がやけに大きく聞こえました。最初の種目は、三角巾操法。草津の競技会以来、二年ぶりの緊張感。全選手、研修生の見守る壇上での競技。何度経験しても、この緊張感は無くなりません。

前回出場の総合成績八位を上回るべく出場した、今年度の全国スキーパトロール技術競技会は、秋田県東成瀬村のジュネス栗駒スキー場で開催されました。

スキー場に到着しての第一印象は、こも雪が茶色いなどした。山を挟んで夏油高原スキー場の反対側に位置するこのスキー場でも夏油高原と同様、度重なる黄砂の影響で雪が茶色くなっている状態でした。全国からの競技大会のヘントリリー数は、二十三チームでしたが、出場は、二十チーム。前回出場した草津大会接、二十五チ



チームの参加だったので参加チームの減少は寂しい限りです。初日は室内競技が行われました。我がチームの苦手とする種目です。案の定三角巾操法は、大きくタイムロスし一十九位。ただ、ロープ操法は、七位と健闘しました。

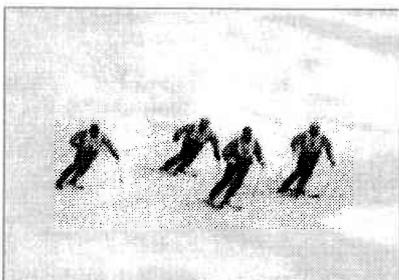
夜は、恒例の懇親会が開催さ

れました。村をあげての歓迎をいただき村長さんを始め、スキー場関係者も勢揃いし大変盛大なものとなりました。また、地元皆さんによる太鼓の競演は大変迫力がありすばらしいものでした。夜更けまで語りは続き、他県のパトロールとの懇親を深めることができ競技会への参加の第一の目的は達成されたものと思っています。

二日目は、雪上競技。前夜に若干積雪があったものの、すぐにべた雪になり、非常に滑りにくい雪での競技となりました。ポート搬送、総合滑降ともに難にこなし、総合順位では、十三位と振るわなかったものの、雪上競技においては並み居る強豪の中での、五位ということ

で練習の成果を発揮できたものと思っています。練習した種目ほど成績が良く練習は正直だなというのが今回の実感です。全種目まんべんなく練習していくことが上位入賞への近道と感じてきました。

最後になりますが、今大会への参加に当たり、パト連絡協岩手県支部、県連安全対策委員会役員、パト連絡協岩手県支部千葉会長、上田副会長より多大なご支



公認パト受験無事合格 強化・養成講習で充実した練習

高橋克周 (北上市スキー協会)

幼少のころより始めたスキーは途中数年のブランクがあったもののスキー歴二十年以上になります。パトロールは学生時代から始めて八年、九年目の今シーズンは会社を辞めパトロールに専念することになり、いよいよ公パトに挑戦することになりました。このような事態になったのも偉大な父(とっくに他界してますが)の影響だろうか？

今年の検定は三月四日、六日の三日間で、東北ブロックの会場は秋田県田沢湖スキー場にておこなわれ、岩手県からは二名、ブロックの講習会でも三

名の強化講習では受験者が二名ということでした。基礎スキーで個人的にショックを受けました。スキーをやらせなくなっていたのです。原因は、カービングスキーを履き比較的急な斜面を滑っていた(カービングに酔っていた)ためでした(笑)。スキッティングつまり「ズラシができない」というより、「忘れた」というべきでしょうか。普段のままに滑っている(巡回している)ためです。ポート搬送では日頃から行っており、問題ありませんでした。前述のように受験者は二名。一緒に受験した大崎君としてはきつかったと思います。ちなみに私は八十。

東北ブロックの養成講習では朝早くから夜まで、学科、ポート搬送、ロープワーク、基礎スキーと充実したものでした。学科は各講師の貴重な経験(事例)を聞くことができ、充実したものでした。基礎スキーでは私と同じカービング病の方が

いたようです。検定当日は、想像以上に緊張しました。初日の学科試験に始まり、二日目の搬送テスト、基礎テスト、三日目の三角巾、ロープワークと緊張の連続でした。検定や試験ではいつも思うことなのですが、「何でもっと練習(勉強)しなかつたんだろう!」とか「心臓小さすぎ」という後悔でいっぱいでした。結果は、内容はともかく、岩手県の二名は無事合格でした。

近年、スノーボードの普及、用具もカービングへの移行、スキー(スノーボード)人口の減少と刻々と環境は変化しています。しかし、雪がある限りスキーは無くならないわけです。パトロールも変化に対応できなければなりません。私も、安全対策、スキーヤー、スノーボーダーのマナーの向上のみならず、自己の技術の向上、スキーの普及、雪山のすばらしさを伝えていきたいと思えます。

